

東京スカイツリーのビュースポット及び来訪者の回遊行動に関する研究

茨城大学 学生会員 ○久保 美春

茨城大学 正会員 小柳 武和

茨城大学 正会員 桑原 裕史

1. 研究の背景

墨田区はスカイツリーを観光客増加の起爆剤とするため、2006年9月にまちづくりグランドデザインを策定した。また2008年1月に策定した墨田区観光振興プランでは、観光の基本戦略として観光拠点エリアを設定し、スカイツリービューに着目して各拠点を回遊するための周遊軸を定めた。しかしスカイツリーのビュースポットと周辺への回遊行動との関係について現状が把握できていない状況にある。そこで本研究では、メルテンスの法則に基づき、視点と視対象との物理的位置の関係を明らかにするとともに、ヒアリング調査に基づき実際の回遊行動を把握した。

2. 研究の目的

本研究の目的を以下に示す。

- ① スカイツリーの見え方をメルテンスの法則を用いて調査し、ビュースポットの特徴把握を行う。そしてビュースポットの特徴を活かした、新たなタワービュー軸の抽出を行う。
- ② スカイツリー来訪者を対象として周辺エリアへの回遊行動に関するヒアリング調査を行いスカイツリー周辺エリアへの回遊状況とビュースポットへの回遊状況の把握を行う。
- ③ 周辺エリアへの回遊を誘発するためのビュースポットを用いた回遊ルートの提案を行う。

3. スカイツリーのビュースポット調査

(1) メルテンスの法則による対象の見え

メルテンスの法則を用いてスカイツリーが周辺の街からどのように見えるのか、印象の変化を調査した。高さ $H=634\text{m}$ 、距離 D として同心円状に D/H を示した。

(2) ビュースポットの抽出

観光情報誌・インターネットの口コミ・現地調査やヒアリング調査から87カ所のビュースポット抽出をした。

a) 推奨ビュースポットの調査

地元住民が推奨するビュースポットを把握するため、

ヒアリング調査を行った。回答数41部のうち24.2%と最も多く推奨されたビュースポットは、北十間川にスカイツリーが逆向きに写る逆さツリーを撮影できる十間橋であった。逆さツリーはスカイツリーのビュースポットにおいて、魅力的な構図になると考えられる。

b) D/Hとビュースポットの関係

抽出したビュースポット87カ所をマップにプロットし、メルテンスの法則を用いてビュースポットの特徴を調査した。表-1より $D/H=1$ と $D/H=3$ に多くのビュースポットが存在する。これより、スカイツリーのビュースポットは「個々のディテールが鑑賞される」や「建築的・絵画的印象」が特徴であると考えられる。

(3) ビュースポットの構図分類

ビュースポット87カ所を構図別に分類した(図-1)。

a) 構図分類とD/Hの関係

構図分類されたビュースポットの位置の把握とメルテンスの法則との関係について把握するために、構図を分類ごとに色分けしてビュースポットのプロットを行った。 $D/H=1$ は迫力・圧迫感と鏡ツリー、 $D/H=2$ は道からツリー、 $D/H=3$ はコラボと隅田川沿い、 $D/H=4$ はコラボといった各エリアの特徴がみられた。

表-1 D/Hとビュースポットの関係

	ビュースポット数	メルテンスの法則	
$D/H=1$	22	仰角 45°	対象全体を見ることができない。個々のディテールが鑑賞される。
$D/H=2$	14	仰角 27°	全体を眺められる位置
$D/H=3$	20	仰角 18°	建築的・絵画的印象
$D/H=4$	17	仰角 $10\sim12^\circ$	純絵画的
$D/H>4$	14		
合計	87		

鏡ツリー	逆さツリー	すき間ツリー	隅田川沿い	コラボ
とび出しツリー	迫力・圧迫感	道からツリー	時間	遠景

図-1 ビュースポットの構図分類

キーワード スカイツリー、ビュースポット、回遊行動

連絡先 〒316-8511 茨城県日立市中成沢町 4-12-1 TEL:0294-38-5004 FAX:0294-38-5249

(4) 構図別ビュースポットによるタワービュー軸

異なるD/Hの範囲の構図別ビュースポットを線で結ぶと、5つの線が現れた。これらをタワービュー軸とし図-2に示した。軸の名前は構図分類でつけた名前を用いた。

5. スカイツリー来訪者の回遊行動調査

スカイツリー来訪者の回遊行動の把握、ビュースポット認知度・ビュースポットへの回遊状況の把握を行うため、ヒアリング調査による回遊行動調査を実施した。

(1) スカイツリー来訪者の回遊状況

回答数 101 部のうち周辺のエリアを回遊したのは 55%であった。その中で、浅草と回答したのが 47.3%と約半数を占めた。おしなり商店街を中心とする浅草通りへの回遊者は 10.9%である。商店街への回遊が少ないことから、周辺商店街はスカイツリー来訪者による経済効果が低いことが考えられる。

(2) ビュースポット認知とビュースポットへの回遊

ビュースポットは来訪者の46%が認知しており、その中でも56.3%が逆さツリーを認知していた。しかし実際に、逆さツリーの撮影へ赴いたのは17.6%であった。

(4) ビュースポットと回遊エリア

図-3より回遊エリアは $D/H=4$ （スカイツリーから約2.5km）の範囲に納まっている。図-3より回遊エリアにはビュースポットがあり、スカイツリー北側の回遊がないエリアにはビュースポットがないことがみられる。以上より、ビュースポットは回遊を促す要因の一つになると考えられる。

6. ビュースポット回遊ルート の提案

(1) 回遊ルート選定の方法

スカイツリーのビュースポットは構図に特徴があるものが多いため、ビュースポット巡りで周辺エリアへの回遊を高められると考えた。以下の選定基準を設定し、ビュースポット回遊ルートの提案を行った。

- ① 徒歩で回遊が可能であること。(D/H=4以内とする)
- ② 地元住民が推奨したビュースポットを含むこと。
- ③ 構図別ビュースポットを含むもの。

(2) ビュースポット回遊ルート の 提案

選定基準を用いて6つのビュースポット回遊ルートが提案できた。浅草通りルート(図-4)は、おしなり商店街への回遊者増加を目的とする。ビュースポットを巡るきっかけにスカイツリーの足元にある商店街ならでわの、あやかりグルメを提供する店など商店街の散策がされることが期待できる。

7. 結論

- ① メルテンスの法則により、スカイツリーのビュースポットは「個々のディテールが鑑賞される」や「建築的- 絵画的印象」が特徴であると考えられる。そしてビュースポットの構図分類を行い、構図別にビュースポットをマップにプロットを行った結果、構図別ビュースポットが直線状に複数分布する傾向が伺えた。これを「タワービュー軸」と呼び、その軸から望むタワーの構図について考察した。
- ② 回遊がないエリアにはビュースポットがないことが確認された。この地域では回遊を促す要因の一つとしてビュースポットであることが確認された。
- ③ 選定基準をもとにビュースポットを組込んだ6つの回遊ルートが提案できた。ビュースポット巡りが周辺商店街への回遊者の増加につながると期待できる。

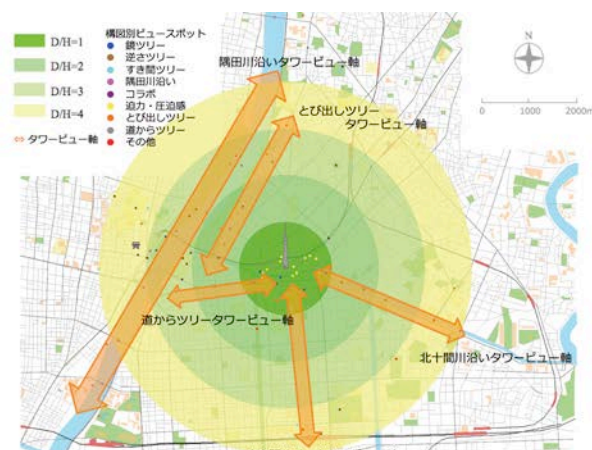


図-2 構図別ビュースポットとD/Hとタワービュー軸

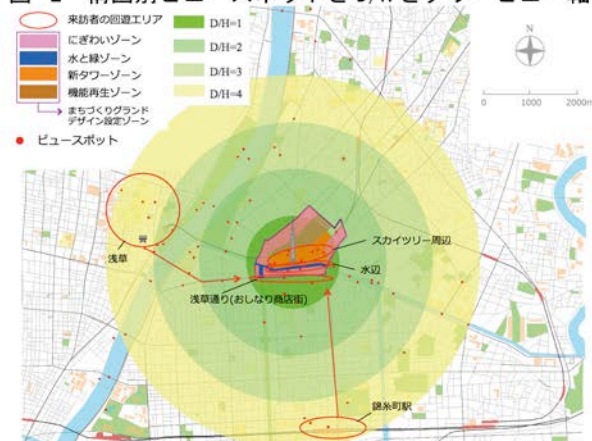


図-3 ビュースポットと回遊エリアの関係



図-4 浅草通りルート

《参考文献》

1) 篠原修 新体系土木工学59土木景觀計画 技報堂出